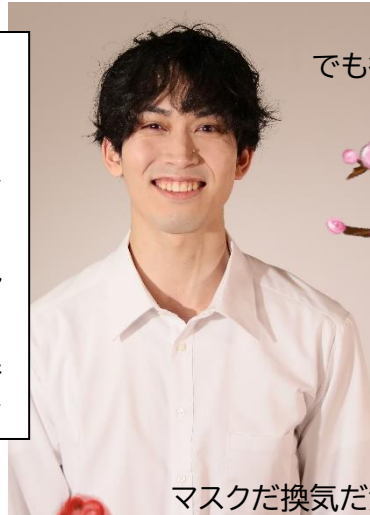


わきみち ~オペラの脇道!~ vol.23

こんにゃくらぶの皆さま、こんにちは。次回の本公演はオペラ『浮かれのひょう六機織唄』♪
1978年以來、上演されていなかった幻のオペラ!! 出演者の意気込みをご覧ください。

ひょう六

吉田進也



このお話は飢饉の時代。みんなは明日のメシも食えるか不安なのに、ひょう六は全然働かない！
眠ったら寝る。腹が減ったらメシを探す。歌い、踊る。顔も良く、女にモテる。
でも彼曰く「自分からたらし込んだ覚えはない」そう。なんでこんな奴がモテるんだ？



① 猫説 ひょう六は猫である。

身のこなしが軽く、今世間が抱えている理屈よりも自分の本能で生きている。おらア踊りたいんだ！歌いたいんだ！ハラハッタ！
そんな自由奔放な姿に、人々はどこかで許してしまい、憧れてしまう。

② 太陽説 ひょう六は太陽である。

僕らがこの数年に経験したような得体の知れない生命の危機。
マスクだ換気だ消毒だと色々対策を試みたが、根本からの解決に向かっている気がしなかった。
飢饉でも食べられる植物を探したり、雨乞いしたり……でもいつ報われるのか解らない絶望に
人々は心も身体も蝕まれただろう。そんな世界で、歌は、踊りは、せめて心だけでも明るくしようとする
太陽だったのではないか？底抜けに明るいひょう六に人が集まるのも無理はない。

吉田進也

……なんてことを考えつつ、この文章を書いている吉田にとって、初めてのタイトルロール。
楽しく明るく、気張って参ります。どうぞお楽しみに!!

こんにゃく座に入座して最初に出会ったオペラは、若林一郎さん台本、
林光さん作曲の『あまんじゃくとうりこひめ』でした。

研修でしぼられながらたっぷり歌い、旅公演で初めて出演した思い出深い作品です。

最近「こんにゃく座は民話オペラはやらないのかなあ」と思っていたところ、

『あまんじゃくとうりこひめ』と同じ、若林一郎さんと林光さんの民話オペラ
『浮かれのひょう六機織唄』を上演すると発表がありました。なんと45年ぶり!!!

映像でも見たことはないし、音源を聞いたこともありませんが、

昭和の香り漂う私にぴったりの作品に違いないと勝手に親しみを感じたのでした。

その後、昭和の香りをプンプンさせているせいか、お糸さんの役をいただきました。

お糸さんは機織りの名手で、そのスゴさは「はやり唄になって他の村にまで知れ渡る程」なんですって。

名手って、もともとスーパー出来る才能の持ち主なのか、

血のにじむような努力の持ち主なのか私にはさっぱりわかりませんが、

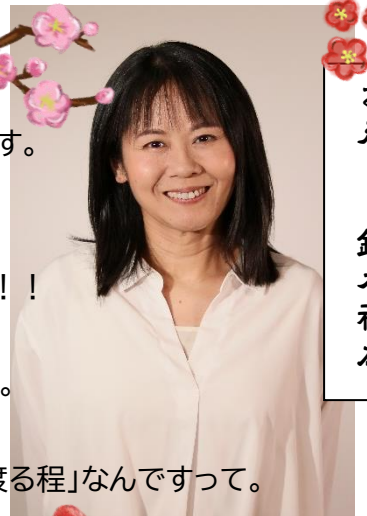
何にせよそんじょそこらの人ではないはず。

仕事に没頭しすぎて血も涙もなくなってしまっているかも？なんていろいろ考えます。

どんなお糸さんになるのか楽しみにして下さいね。

お糸

鈴木裕加



Yuka

2019年に出産し、子育ての日々で舞台から遠ざかっていましたが、久しぶりに出演します！
久々の舞台&45年ぶりに再演のこの作品がどう生まれ変わるのか、
楽しみでやる気に満ちた気持ちと、
家事子育てとの両立への不安な気持ちも心に渦巻く稽古イン前です。
こんにゃく座には子育てしながら仕事する強くてカッコいい父母座員もたくさんいます。
私も大きな一歩、覚悟を決めて踏み出したいと思います！！

今回私が演じるお縫という役は、評判の機織娘のお糸に機織りを教わりたいとやってきます。
弟が8人もいるお縫さん。
不器用けれども機織りで家計を支えなければ家での居場所もない為必死です。
稽古開始とともに始まるであろう、私の実生活での大奮闘もいかしながら
魅力的なお縫さんを演じられるよう頑張ります。

モテモテ男ひょう六さん。私は「恋ってどんなだったっけ??」と遠い遠い記憶を掘り返して
おりますが、なんと食べ物でも恋の時に出現するときめきホルモンが放出されるそうです！！
チョコ、チーズ、赤ワインを食べて飲みながらときめきホルモン多めにお稽古頑張ります！！

川中裕子

お縫
川中裕子



かすけ

壹岐隆邦



壹岐隆邦

名は体を表す、と云いますが《ひょう六》《お糸》《お縫》とそれはまあキャラクターの
”なり”を語っている名前だなあとと思います。
では、私の演じる《かすけ》はどうか。「かすける」？「ちょかすけ」？
どうも当てはまらない。考えた末に思い至ったのは、「かっか」の「か」ではないか？

そうなのです。舞台上で《かすけ》はとにかく怒っている。
怒って登場したと思ったら嘆きの後に怒って、沸点が低いと思ったらそこはまだ
実は融点で、怒りとともに音程も上がっていき(高い!)、更に怒って、怒りながら退場する。
なんで怒っているのかはご覧いただいてのお楽しみとして、こんな調子なのです。
私自身はどちらかという風船が自然に萎んでいくように怒りも抜けていくタイプ
なので、《かすけ》のように破裂するのはまるで正反対。
自分には無い感覚を引き出せるよう、意気高く、邁進していきます！

余談ですが今回、2010年の入座以来はじめて同期4人(金村慎太郎、川中裕子、武田茂、
そして壹岐)が同じ舞台に立ちます！それもまた楽しみです♪

オペラの協道 第23号 発行日 2023年6月18日

発行所 オペラシアターこんにゃく座・こんにゃくらぶ

〒214-0021 神奈川県川崎市多摩区宿河原 7-14-1

TEL 044-930-1720 FAX 044-930-1721

E-Mail: info@konnyakuza.com <https://www.konnyakuza.com>

オペラの協道編集部

大原小夜子 富山直人 高野うるお 石窪朋 北野雄一郎 沢井栄次 沖まどか 鈴木あかね 小林ゆず子

